

《多施設共同研究》

九州沖縄地区における後腹膜腫瘍の実態調査

【組織】

研究組織母体：九州泌尿器科連合会

研究代表者：産業医科大学泌尿器科 教授 松本哲朗

データ収集・解析の総括：藤本直浩（産業医科大学泌尿器科）

参加施設：九州各県の泌尿器科施設

【研究の目的】

後腹膜腫瘍は比較的まれな腫瘍ですが、非常に悪性度の高い腫瘍です。本邦および世界的においても後腹膜腫瘍の大規模な臨床データはなく、今回、九州沖縄地区の後腹膜腫瘍症例を対象に、臨床所見、治療法、病理組織学的診断、予後を調査・解析し、後腹膜腫瘍の実態を明らかにし、同疾患の治療法およびその選択、予後、治療後の経過観察方法など、難治性の後腹膜腫瘍症例の治療に貢献することを目的する。

琉球大学泌尿器科も上記のテーマの多施設共同研究を行うことになりました。

本研究では、疫学研究に関する倫理指針第3-1-(2)-イ、既存生体試料の利用として臨床研究に該当すると考えられるため、研究対象者からのインフォームド・コンセントを受けることを必ずしも要しませんが、患者の意思を尊重しの希望があれば何時でも調査への研究対象者から除外することが出来ます。患者が調査に参加しなかったことや途中で参加を取りやめることで、不利益になることは一切ありません。